

お米を実らせる

イネ



イネ目イネ科

高さ約1m

春～秋(収穫10月)



栽培イネにはアジアイネとアフリカイネの2種がある。イネは水田で栽培するものと思われているが、畑栽培の陸稲(おかぼ)もある。アフリカの飢饉対策のために生まれた2種の交配品種「NERICA」は水田と畑の両方で栽培されている。

Oryza sativa

(玉川の仲間たち)

土壌がもたらす恵み

農作物

小原廣幸教授提供・写真提供



自然は
学自校然は

Brassica oleracea var. *capitata*

アブラナ科の代表格

キャベツ



アブラナ目アブラナ科

直径25～30cm(結球部)

冬(収穫)



原産地はヨーロッパとされる。秋～冬に旬をむかえる結球野菜の代表。3～5月に収穫する春キャベツもある。播種時期は盛夏で、発芽適温は15～30℃と高温。農場では8月のお盆の頃に播種する。

夏に赤く実る

ヤマモモ

ブナ目ヤマモモ科

高さ約20m

6～7月(収穫)



6～7月に熟し、甘酸っぱくヤニ臭がある。関東以南で自生し、果実はジャムや果実酒に加工される。植栽された農場裏手にあるヤマモモは園芸種「瑞光」「もりぐち」で果実が大粒。本部様の前にも1本ある。幹径1mになる成木もある。



Morella rubra

果実ではなく野菜です

スイカ



ウリ目ウリ科

直径30cmほど(実)

7～8月(露地栽培の収穫)



熱帯アフリカのサバンナや砂漠地帯が原産で、紀元前4000年代に栽培化。園芸分野では野菜に分類され、果実とされる。夏野菜の代表であり、日当たりの良い畑で栽培される。農場の温室では養液栽培(水耕栽培)が試みられている。

Citrullus lanatus

緑茶も紅茶も烏龍茶も

チャノキ



ツツジ目ツツバキ科

高さ7～8m

5～9月(収穫)



茶摘みの目安である「八十八夜」は、正月ではなく立春(2月3日)から数える。茶畑で学生に「お茶摘みなしな〜」と誘うと「摘みたい〜」と答えてくれる。農場で園児から学生まで茶摘みをして、緑茶や紅茶をつくり、風味を楽しんでいる。

Camellia sinensis

紀元前3500年前から栽培

ゴマ

シソ目ゴマ科

高さ1mほど

7～10月(収穫)



子ども番組『セサミストリート』はアラビアンナイトの呪文「Open Sesame」から。原産地はインドで高温乾燥を好む。日本最大の生産地は鹿児島県喜界島。農場のゴマはカメムシ被害で収穫量は少ないが、葉はリースのオーナメントになる。



Sesamum indicum